

とす

ハ、滿洲

(ロ) 纖維作物、茶等に付ては東亞共榮圈内の生

産、交流、技術指導等の対策を考究すること

3 畜産に付ては農業經營方策と關聯して飼料供給確

保を留意しつつその対策を考究すること

4 水産に付ては東亞共榮圈内全水域に亘る生産、配

給および加工対策を考究すること

5 食糧の増産確保に不可缺なる肥料に付ては硫酸ア

ソモニア、石灰窯素および過磷酸石灰等の生産擴充

を圖ると共に大東亞共榮圈内におけるカリ資源の發

見開墾に特段の努力を拂ふこと

内閣統計局の生計費指數並に商工省
の物價及賃金指數の發表2 支那
北支、蒙疆、中支および南支を通じ食糧の自給度の強化を圖るため各地域の事情に應じそれべつ雜穀お

よび小麥の外棉花その他の纖維作物の生産増強を期すこと

3 南方諸地域

南方諸地域における生産對策に付ては先づ以て住民在來の生活安定感に無用の刺戟を與へざるを主眼とし技術および經濟兩面に亘り住民の我方指導に對する信賴を失はざる様措置すること

二、其の他

1 平戰兩時に於ける主要食糧の供給確保を期する

爲、内外地其他適當の地に主要食糧の貯藏に關する施設を擴充整備すること

2 本計畫に於いて對象となるものの外重要農產物に關する對策は逐次本計畫を補完する如く策定するものとし

全國及都市別生計費指數

(昭和十七年一月分、内閣統計局調査)

(イ) 蔬菜等青果物に付ては國內人口の増加に即

して國內自給の確保に力を注ぐの外大東亞共榮圈に對する種苗等の供給、技術指導等の對策を考究すること

(2) 朝鮮の大豆に付ては一定數量を内地に供給

し得るが如く生産を期すること

(3) 臺灣の砂糖に付ては現狀維持に止むるものとし日滿支に對する供給に不足する分に付ては

南方に依存すること

1 内地、朝鮮、臺灣および満洲を通じ主要食糧自給體制の確立を圖るため適當すべき物資の種類および交易事情を勘案し更に期間を細分したる生産計畫を十箇年後の生産目標を概定すること左の如し、但し考慮するものとす食糧自給確保は人口および民族政策と不可分の關係ある事項なるに鑑み、これが完全のため農業生産力の擴充、農產物價格その他に關する各般の政策を樹立實行し以て農業および農家の保護育成に遺憾なきを期すること

イ、内地に先づ米麥の生産に主力を注ぎ次いで甘藷、馬鈴薯の生産に努力するものとし(1) 米に付ては約一二〇〇〇千石の増産を圖り約八三〇〇〇千石の生産を期すること

(2) 麥類に付ては大麥、裸麥約一二〇〇〇千石(裸麥に換算)の増産を圖り約二五、〇〇〇千石(裸麥に換算)小麥を併せ約三千八百萬石の生産を期すること

(3) 甘藷に付ては約二十億貫、馬鈴薯に付ては約八三〇〇〇千石の生産を期すること

ロ、朝鮮および臺灣

(1) 米に付て主力を注ぐこととし兩地域を通じ内地に對する供給を確保するが如く生産を期すること

(2) 朝鮮の大豆に付ては一定數量を内地に供給し得るが如く生産を期すること

(3) 臺灣の砂糖に付ては現狀維持に止むるものとし日滿支に對する供給に不足する分に付ては南方に依存すること

生計費指數

本 月

前月ヲ百基

シタル

騰落割合

勞 勵 者

割合

前年同月ヲ

秋	前	水	橫	鹿	長	和	姫	岡	松	松	小	長	兒
須	歌	野	山	路	山	江	山	倉	崎	島	國	賀	岡
橋	戶	賀	岡	松	野	山	路	山	江	山	倉	崎	島
一七五五	一六五〇	一八五八	一六五八	一七六八	一七七三	一七八六	一八六九	一七六九	一六七一	一七七九	一七八九	一六七一	一七五四
一六五六	一六九一	一六八二	一六一九	一七二八	一六五三	一六八九	一六五三	一六八三	一六〇五	一六六三	一五六八	一六四三	一六七二
一六三九	一六三九	一六六三	一五七六	一六八三	一五六八	一六六七	一六六七	一六七二	一六七一	一六七一	一七五六	一七三三	一七三三
(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
六〇	九三	九三	八二	七三	三八	五二	五六	四九	三六	〇七	二六	五六	五七

十三都市卸賣物價概況

(昭和十七年一月分 商工省調査)

	全國卸賣物價 指數	本月指數 前年同月 指數	騰落率
分類別			
食 料 品	一七九·四	一七三·一 (+)	三·六
纖 維 品	一七一·一	一三〇·七 (+)	三〇·九
金 屬 品	三三〇·八	二二五·三 (+)	七·三
建 築 材 料	一九九·九	一九〇·六 (+)	四·九
工 業 藥 品	一二五·四	一二三·六 (+)	一·五
肥 料 料	一六四·〇	一六九·五 (-)	三·三

(二)

平 大 緑 麥 清 鰹 精 味 檬 鹽 雞 豚 內 激 小 小 大 小 裸 大 臺 同
豆 豆 製 麥 牛 地 牛 麥 玄 玄 (下)

十三都市貨金概況

(昭和十七年一月分、商工省調査)

全國貨銀指數

彙報

東大神名横廣金仙小福新高國知濶岡樽臺澤島濱屋都戶阪京古

ノ一箇年平均質銀基準)

業 種	就業日數及就業時間		
	本 月	前 月	就業時間
纖維工業	二三·九	二五·二	九時四十分
金屬工業	二四·四	二五·九	一〇時五十五分
機械器具工業	二三·三	二五·一	一〇時三十六分
窯業	二三·八	二五·七	九時五十九分
化學工業	三三·五	二五·七	一〇時五十五分
食料品工業	三四·九	二五·八	一〇時三十三分
被服及身廻品製造業	三三·六	二六·四	一〇時三十一分
製造業及家具類	三三·四	二六·七	一〇時三十一分

1、本指數ハ昭和九年四月乃至翌十年三月ノ一箇年平均
貨銀ヲ一〇〇トン累純算術平均ノ方法ニ依リ算出セリ
2、本指數ハ一箇月間ヲ通算シタル貯放貨銀ニ據レルモ
ノナルモ土木建築業ニ配屬セル勞務者及日傭人夫ニ限
リ一箇月ノ所定日ニ於ケル足額貨銀ニ據レリ

本月前月比較

(一) 全國貨銀指數